

科目名（英文表記）	地域経済・経営Ⅲ（北海道経済の課題） (Regional Economy and Management Ⅲ)		
科目区分	基礎科目	単位数	2 単位
担当教員名	小高 咲（非常勤講師）	ナンバリング	MBA_C_EM 6231
研究室番号	なし	研究室電話番号	なし
Eメール・アドレス	kotaka-sho@hro.or.jp		
授業の内容及び方法： 次頁以降に記載			
<p>授業の目的：本授業では、まず経済の現状や構造をどのように把握するかを学ぶ。次に、それを北海道経済にあてはめ、北海道経済の特徴や現状を把握・分析する。そのうえで、北海道経済の課題と具体的な解決の方向性について考察する。</p> <p>到達目標：北海道経済の構造や課題について各自が自分の理解を持ったうえで、課題解決のための北海道の経済的な基盤強化について、方法論も含めて考察・整理すること。最終成果物は、各自が「北海道経済の課題」と考える事象を抽出し、それに働きかけることがなぜ北海道経済のマクロ的な課題解決に繋がるのかを論理的に示したうえで、具体的な対応策を考察するレポートを執筆することである。モジュール7と8において、レポートについてのプレゼンテーションを実施することを予定している。</p>			
<p>使用教材： 使用教材は、その都度manaba上で指定するが、以下のレポート等は使用予定である。 ①「北海道経済要覧2021」北海道経済部経済企画局経済企画課 令和4年7月（北海道HPからダウンロード可能） ②北海道経済同友会委員会報告・提言 https://hokkaido-doyukai.jp/2023/ ③「北海道の宿泊・観光産業の高付加価値化に向けて」 日本政策投資銀行 2025年12月 https://www.dbj.jp/upload/investigate/docs/456976fe1ad7e6132c4c17660a74779.pdf ④「統計でみる都道府県のすがた 2025」（統計局HPからダウンロード可能）</p>			
<p>成績評価の方法： ●授業への参加姿勢（授業時における発言、グループディスカッションへの貢献、プレゼンテーション力など） 40% ●事前・事後課題 20% ●最終レポート 40%</p> <p>評価に不服のある場合には、不服申立書をもって教務委員長に申し出ること。</p>			

履修上の注意事項：

●モジュール3まではインプットが中心となる。モジュール4～6では主にゲストスピーカーの講義を聴き、モジュール7以降でレポート案のプレゼンとディスカッションを行う。モジュール3までの段階で自分の問題意識を整理しておくことが、その後続くゲストスピーカーの講義やディスカッションをより有益なものにすることに繋がるので、そのような意識で講義に臨むこと。

●「到達目標」に記載のとおり、最終成果物であるレポートは、各自が「北海道経済の課題」と考える事象を抽出し、それに働きかけることがなぜ北海道経済のマクロ的な課題解決に繋がるのかを論理的に示したうえで、具体的な対応策を考察・整理するものである。具体的な対応策自体はミクロ的なものでよく、それがマクロ的な課題解決に結びつくことの説明が重要となる。

●単に、自分が選択した特定業種や特定産業に係る課題とそれに特化した課題解決策を示すだけでは求めるレポートにはならないので、十分注意すること。

●以下の理由から、①医療・福祉・介護分野、②一次産業の生産そのものを「北海道経済の課題」として取り上げることは、原則として認めない。

▼①については、単に「医療・福祉・介護が弱体化すると地域の生活が脅かされ地域経済が立ちゆかなくなるから、その強化が北海道経済の課題である」として、医療・福祉・介護に特化した専門的な課題解決策を述べる方向に行きがちであるためである。

▼②については、巷で一般的に語られる不正確な説にとらわれて課題認識自体を誤る可能性が高いうえ、自然を相手にする産業にあって、例えば「高付加価値の作物に切り替えるべきである」といったことを主張しても意味がないからである。

上記①、②に関連する分野を取り上げたいと考える履修者は、事前に講師に個別に相談すること。

●授業内でのプレゼンテーションや講師の問いに対する発言等を通じて、自分の意見を発信することを重視する。プレゼン時間やプレゼンで取り上げるべき項目を遵守し、人に聴いてもらう・理解してもらうことを心掛けること。プレゼンは、持ち時間を厳守すること（短すぎても長すぎてもNG）。なお、プレゼン用の資料を準備することは求めない。

●最終レポートの評価に当たっては、「文章を通した発信力」にも着眼する。具体的には、①最低限ビジネス文書として読むに堪えるものであること（誤字脱字がない、文法が整っている、接続詞の誤用がない等）、②個人の意見や想いに止まらず客観的なデータ分析等に裏打ちされていること、③ロジカルであること、を求める。特に②や③を踏まえれば、独断的な表現や過度な強調、修飾語の多い美文はNG。

●外部実務家の講義を取り入れ、より大きな視点で北海道経済が置かれている状況やその変化を捉えたり、課題解決に向けた最新の動きに触れることを目指す。

●授業は基本的に、本シラバスの記載内容に即して進行するが、授業内で出された意見やディスカッション、履修者の関心等を踏まえて変更・修正等を行うことがある。そうした場合には、manaba 等でその都度通知する。また、履修者の人数によって、シラバスの内容を修正することがあり得る。